

令和6年度第1回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年5月18日（土） 10時～12時40分

テーマ：霞ヶ浦の源流 筑波山の春のブナ林を訪ねる旅

場 所：筑波山自然研究路及びかたくりの里

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：筑波山は、霞ヶ浦に注ぐ桜川の支流男女川の源流にあたり、霞ヶ浦の水源になっています。筑波山の山頂付近には、ブナの原生林が広がり、多くの動植物を育てています。ブナ林の豊かな土壌は水を貯える緑のダムとも呼ばれています。この観察会では、春のブナ林を訪ねブナの新緑と季節の植物を観察します。

参加者：16名（大人12名、小学生4名）

担当職員：6名

パートナー：5名

結 果：

筑波山のブナ林での自然観察会は、霞ヶ浦環境科学センターの霞ヶ浦自然観察会としては初めての試みです。ブナの新緑が美しいこの季節に、筑波山の男体山を一周する筑波山自然研究路とかたくりの里を観察場所にして、植物の観察会を実施しました。天気は晴れ、絶好の観察会日和に恵まれ、快適に観察会を行うことができました。

筑波山ケーブルカーの筑波山頂駅を出た御幸ヶ原に10時集合、筑波山は、まだ観光シーズン中、駐車場やケーブルカーは満員状態でしたが、全員無事集合、まず、御幸ヶ原の昭和天皇の石碑に刻まれている「ハルトラノオ」の和歌を鑑賞し観察会はスタートしました。ハルトラノオの花は終わっていましたが、スタートして間もないところで元気に群生しているところを観察することができました。観察のコースは、筑波山自然研究路を時計回りに回るコースです。自然研究路は、男体山の斜面、標高800～750mに位置する登山道で、道のりが1.4km、全コースがブナの原生林に位置する自然豊かな場所です。森林を構成する樹木や季節

の植物などを観察しながら、約2時間かけて1周しました。

スタート地点に戻ったあと、御幸ヶ原の南面に位置する男女川源流を訪ね、最後に御幸ヶ原から女体山方向に少し登ったかたくりの里で、ブナ林の保全の様子を観察して、観察会を終了しました。2時間40分に及ぶ長丁場の観察会でしたが、皆さん元気に行動し、満足度の高い実り多い観察会になったと思います。

下に、観察することができた主な植物を掲載します。

○ヤマブキソウとニリンソウ

御幸ヶ原から階段を少し登ったところで、ヤマブキソウとニリンソウを観察。どちらの植物もほぼ終わりかけ。ヤマブキソウは鮮やかな黄色い花と細長く立った果実を観察、ニリンソウは、1つの株に花が2つついている様子を観察できた。

○キヌタソウとツルキンバイ

葉が4枚輪生しているキヌタソウ、キヌタソウの名の由来は藁や布を打つ道具「砧」に実の形が似るので。ツルキンバイの特徴は、イチゴに似た3小葉に黄色い花。

○カエデの仲間（ウリハダカエデ、イロハモミジ、オオモミジ、チドリノキ、カジカエデ）

筑波山には多くの種類のカエデの仲間が見られる。大きな葉のウリハダカエデ、葉の形がよく似たイロハモミジとオオモミジ、切れ込みのないカエデの葉らしくないチドリノキ、カナダの国旗のサトウカエデによく似たカジカエデを観察することができた。

○アブラチャンとクロモジ

クスノキ科の木は葉をもむと独特の香りがする。爪楊枝の木であるクロモジの仲間のクロモジとアブラチャンの葉を観察できた。

○筑波山の地質

自然研究路を歩いて間もなく大きな岩に出会う。間宮林蔵が立身出世を誓った伝説で有名な立身石である。筑波山の山頂付近をつくっている岩石がこの斑レイ岩である。かたく削られにくい斑レイ岩が残ったことで筑波山の山頂はできているといわれる。

○ササの仲間（スズタケ、ミヤコザサ、アズマネザサ、ササの花）

筑波山のブナ林には、大きな葉のササとして、スズタケとミヤコザサがある。スズタケは葉の裏に毛がなく、ミヤコザサには毛がある。葉の小さなササはアズマネザサ。最近ミヤコザサの花が咲きだした。一斉に枯れる兆候かもしれない。

○ブナとミズナラ、ブナとアカガシの関係

ブナに混じって幹に縦筋のある落葉樹がミズナラ。ブナとともにブナ林を構成する。ミズナラにはナラ枯れの被害が目立つ。大きい葉の常緑樹はアカガシ、ブナが枯れた跡、小さかったアカガシが成長し、ブナ林にとって代わっていく様子が観察される。アカガシはブナより標高の低いところに分布するが、高標高に分布を広げている。温暖化の影響が表れているかもしれない。

○ミヤマザクラ

標高の高いところに分布するサクラの仲間。茨城県では筑波山のみに分布する。個体数は多くない。

○ヒメウツギ

岩の隙間から生え、垂れるように白い美しい花を咲かせる。

○シキミとミヤマシキミ

シキミとミヤマシキミは、どちらも葉をもむとにおいのする木、筑波山のブナ林にはどちらも多く分布するが、分類上の類縁関係はない。どちらも有毒植物。

○スミレの仲間（エイザンスミレ、ナガバノスミレサイシン、フモトスミレなど）

筑波山のブナ林では、エイザンスミレ、ナガバノスミレサイシン、フモトスミレなど多くの種類のスミレを観察できる。特にエイザンスミレは葉に切れ込みがあり独特の形である。

○ツクバキンモンソウとツクバトリカブト

筑波山で発見され、名前が付けられた植物は多いが、ツクバキンモンソウとツクバトリカブトは筑波の名前を冠する代表的な植物。ツクバトリカブトは有毒植物である。

○ブナとイヌブナ

日本に分布するブナの仲間にはブナとイヌブナがあり、どちらも日本固有種である。筑波

山の調査で、ブナが約 7,000 本、イヌブナが約 1,650 本あることがわかっている。イヌブナは株立ちし、葉は毛があって薄く柔らかい。

○岩に生える植物（イワタバコ、ダイモンジソウ、タマガワホトトギス）

筑波山の斑レイ岩の露出しているところには、独得の植物が生えている。代表的な植物としてイワタバコ、ダイモンジソウ、タマガワホトトギスがあげられる。花の季節はこれからなので、また訪れたいものである。

○トチバニンジン

朝鮮人参の仲間で、日本に自生する野生種がトチバニンジン。葉がトチノキの葉に似るのでこの名がついた。朝鮮人参に似た薬効があるといわれる。

○カタクリとキクザキイチゲ

春植物であるカタクリとキクザキイチゲは、葉が枯れている状態だが、果実はこれから熟す季節である。やや三角形の玉のようなカタクリの果実、金平糖の様なキクザキイチゲの果実を観察できた。

○トウゴクサバノオの果実

トウゴクサバノオも早春に花が咲く植物。魚のサバの尾の様な形の果実を観察できた。

○かたくりの里に咲くヒイラギソウ

ヒイラギソウはブナ林に生える絶滅危惧植物。筑波山ではこの季節に比較的多く見られる。

○ブナ林の保全

かたくりの里で、地面が踏まれてブナの根がむき出しになってしまったところに、1991 年に柵で囲い、植生が回復した 2010 年の様子を解説する表示板が設置されている。20 年ほど人が入らないことで、これほど自然が回復するのかと驚く結果である。茨城県が取り組んでいるブナ林保護対策について、ブナ林の調査モニタリング、柵の設置やブナの若木の育成、移植などの事業、観察会や印刷物による教育普及事業などを紹介して、観察会を終了した。

第1回霞ヶ浦自然観察会



昭和天皇の石碑(ハルトラノオを詠んだ和歌の碑)



ウリハダカエデの観察(5種のカエデを観察する)



解説板で筑波山の地質を知る(斑レイ岩と花こう岩)



県内で筑波山だけで見られるミヤマザクラ



岩に生える植物(イワタバコ、ダイヤモンドソウなど)



ブナとイヌブナを観察(樹形や葉の形など)



男体山北斜面の美しいブナ林



男女川の水源、霞ヶ浦の源流にあたる

第1回霞ヶ浦自然観察会（観察した植物）



ハルトラノオ(花は終わったが葉は元気)



筑波山で名前のついた植物ツクバキンモンソウ



真っ白で不思議な植物ギンリョウソウ



カタクリが実をつけていた



果実が実り始めたブナ



実をつけたキクザキイチゲとトウゴクサバノ



ぎりぎりで見られたヤマブキソウ



絶滅危惧種ヒラギソウ、青い花が美しい